



IDF PRESS RELEASE

Belfast, 30th October 2017

IDFプレスリリース

2017年10月30日、ベルファスト発

地球規模で栄養と環境の目標に誓いを立てた酪農乳業

世界の政治と農業の指導者の面前で、酪農乳業は環境を守りつつ栄養豊かな食品を世界に届けるという2つの役割を果たす誓約をたてた。

ベルファストで開かれた国際酪農連盟（IDF）ワールドデーリーサミットにおいて、ジュディス・ブライアンスIDF会長は、世界の酪農乳業関係者10億人強が60億人の消費者に食を届けていると述べた。

同氏はまた、20の酪農国がデーリーロツテルダム宣言のグローバルな取り組みに署名したと述べた。同宣言は国連が定めた持続可能な開発目標の達成に誓いを立てる文書である。

ブライアンス氏は、酪農国の信条は「よりよい健康の地球」をつくり、不平等に対処するとともに貧困から人々を救い出すことであると語った。「私たちは酪農乳業を信じます。栄養面の強みを語るができます。環境対策も進めています。どの業界も完全でなく常に改善の余地があります。しかし酪農乳業にはビジョンがあります。これを達成するに努力をまったく惜しみません。」



ブライアンス氏は、ワールドリーダーズフォーラムの登壇者を紹介した。環境・食糧・農村地域省大臣のマイケル・ゴブ Michael Gove 議員、欧州農務省長官フィル・ホーガン Phil Hogan 氏および国連食糧農業機関（FAO）副事務総長レン・ワン Ren Wang 氏らが含まれる。

ゴブ氏は、英国政府は酪農乳業を支援すると述べた。英国離脱交渉を通じて英国政府としては堅固なサプライチェーンを守り、貿易障壁は設けず、必要な場所に労働力が供給されることを確保したいと述べた。「私たちが思い当ることはまずこれです。」と述べた。



ホーガン長官は、人間の自由な往来という課題について「英国には困難な問題です。これは異なる理由でEUにも当て嵌まります。そこで両者の交渉が必要となります」。割当制度変更後の環境に業界が対応している最中ではあるが、EUの農産品の輸出は増え続けている。さらに、「農場から食卓まで」の持続可能性の活動に係る必要性があると述べた。



ワン氏は、国連の2030年持続可能性目標に取り組む酪農乳業界の決意を歓迎すると述べた。次に必要なことは各国の枠組みを開発し目標と成績の指標をつくることであると述べた。

訳者注：上記の講演者の他に、日本から在英日本国大使館の平中隆司参事官と世界銀行グループ *World Bank Group* のトーマス・リー・バウアー *Thomas Lee Bauer* 氏が登壇した。

翻訳：J I D F 事務局

編者注：仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。